

町野 智子（筑波大学大学院 人間総合科学研究科 循環器内科）

受賞論文：Left atrial stiffness relates to left ventricular diastolic dysfunction and recurrence after pulmonary vein isolation for atrial fibrillation. J Cardiovasc

Electrophysiol 2011;22(9);999-1006.

筑波大学附属病院では、7年前から女性医師キャリアアップ支援システムが設置されました。登録者は専任コーディネーターとの面談の上、個々のキャリアやライフスタイルに合わせた研修プログラムを作成し、それにもとづいた診療・研修を行う事ができます。パートタイム常勤制度の設置や附属保育園拡充等の環境整備もなされています。

私は、2009年大学院に入学後、双胎を妊娠しました。高リスクな多胎妊娠でしたが、早い時期から外来の交代や夜間業務の免除をして頂き、出産間近まで体調管理をしながら研究を継続することができました。約1年の育児休暇中も研究についての相談をメールでやりとりする等、上司の先生方に柔軟に対応して頂き、在宅で受賞論文を完成させることができました。現在子供達は3歳で、育児は同じ医局に所属する夫（大学院生）と分担しておりますが、父親の育児参加という点に関しても、医局の先生方のご理解があり、私だけでなく夫にも同様に夜間・休日の業務の免除等の配慮をして頂いています。そのため夫婦間での調整が可能となり、未就学児の育児に携わりながらも、研究活動を続けてきています。また、これまで夕方以降に行われていた大学院生の抄読会やカンファレンスを日中に時間変更して頂いたり、土日や夜間にかかってしまう実験を分担して頂いたり、指導医の先生方のお陰で、過度な無理はせずに充実した大学院生活を送ることができています。現在は大学院生のため附属病院の支援システム（上記）は利用できていませんが、子育て中の医師をサポートしようという医局全体の理解・配慮があることが、出産後も私が仕事・研究を続けてきている最も大きい要因であると感謝しています。

【受賞論文要旨】

カテーテルアブレーション(CA)を施行した心房細動(AF)患者155症例において、CA直前に計測した左室収縮期左房ピークストレイン値と、一致した時相における実測左房圧の変化値から、左房スティフネス値を推定した。推定左房スティフネス値は、左室拡張障害指標(E/E' , BNP値)やコラーゲン合成マーカー(PIIIP値)と相関し、AF再発群で有意に高く、CA後のAF再発予測に有用であった。